

# 校友会報 114

## 目次

自前の校友会	
南雲 芳夫	1
学園の将来展望	
北郷 薫	1
新校舎に移転して	
草野 邁	3
全国大会を終えて	
上船 幸喜	5
学園だより	7
学園本部 大学	
高等学校 専門学校	
支部だより	9
部会報告	14
総会開催のお知らせ	
平成4年度	
事業報告書	16
収支計算書	17
貸借対照表	17
財務日録	17
平成5年度	
事業計画	18
収支予算計画	18



## ●ごあいさつ

### 自前の校友会

社団法人 工学院大学校友会  
会長 南雲 芳夫

校友会会長をお引受けして早くも一年が過ぎてしまいました。

その間、32支部から、支部活動のお知らせを受け、ご迷惑を顧みず馳せ参りました所、立派に自前の支部活動をしている支部もあり、また逆に支部活動をどのようにしたものか暗中模索の支部もございました。校友会活動というのは、母校のために尽くしたいといういささか古風な活動を頭に描いている限り、日常的な校友同士の接触は難しいと思います。

私にとって、この一年間で最も大きな経験は11月広島における第10回全国大会が、大盛況のうちに終わったことです。これは広島支部を中心とする各位の御努力の賜物であるのはいうまでもありません。色々な方々にお会いした中で興味を引いたのは、地域・年度・学科という比較的大きな差で校友会活動をしているところよりも、極めて小さな地域、あるいは趣味による色々な集まりを中心に、その中に速くはなれた人あるいは学年のかなり離れた人が入ってくる。こういう小さな校友会が比較的会合も多くもたれているという実感を受けました。

自分の親しみを持てる基準で人の集まりをはかり活動する、つまり自前の校友会活動、その積重ねを実行に移すべきではないだろうかと今頃考えています。

政治主義・イデオロギー、はては計画経済の如き立派な机上の理論が、その無能ぶりを証明してしまっただけで世界は右往左往しています。日本も21世紀に向けてどのような社会を創っていくのか誰も解りません。このような時、頼るべきものは借り物ではなくて自前の手段しかないのでしょうか。校友の数とか会合規模の立派さを誇る事も、嘗て同じ学び舎に学んだ思い出に自然に入ることが出来るような校友の集いが大切ではないでしょうか。私たちに自前流の集い、これを色々な方々に考えて頂き、是非実行して頂きたいと思ひます。そのような小さな集いの円滑な連絡・情報交換、それを本部は忠実に実行していかなければならないと思ひます。

2年目に当たり、多少の諸感を申し上げましたが、今後も会員各位の一層の御協力をお願いし、最後に全国の皆様の御健勝・御活躍をお祈り申し上げます。



### 学園の将来展望

学園理事長 北郷 薫

工学院大学・校友会の皆様、私はこの度、高山英華前理事長のあとを受け、理事長に就任いたしました。

高山前理事長におかれましては、永年にわたり本学園の理事長として、本学園の発展に貢献されました。とくに高山前理事長の在任中、本学園は学園将来計画に基づき八王子校地の整備および新宿校地再開発を進行させていました。尚、高山前理事長は都市計画の大家としての立場で両校地の整備と開発を指導されました。その功績は誠に大きいものがあります。私は高山前理事長が本学園の発展に尽くされたご功績を称え、感謝申し上げます。

本学園将来計画中の一大事業であった新宿校地再開発は、平成元年(1989年)の高層棟新校舎の完成について、平成4年(1992年)には中層棟新校舎および、エステック情報ビルが完成いたしました。また、公開空地等を造る第3期工事が残っていますが、本学園の新宿新校舎の建設は、実質的には終了したとよいと思います。

本学の学園将来計画は、平成4年(1992年)を頂点として日本の18才人口が206万人から急激に減少するという事態に備えて、本学園がそのなかでもさらに発展して行くための方策を立て実行に移すことでした。

この計画中の校舎の増築、改築の大部分は1992年までに終了すべきであるとされていましたが、昨年(1992年)10月における新宿、中層棟新校舎とエステック情報ビルの完成により予定通りの展開となっています。

本学園の教育・研究活動の将来計画も建物の増改築に合わせて進行中であり、教育内容の改革は、建物のように外部からは見えませんが、すでに本学園の大学、高校、専門学校においてそれぞれ新しい時代に向けて改革が行われています。

いま、ここに、校友の皆様方に向かって、本学園内の各学校の教育内容の改革のひとつひとつを詳細に説明申し上げることは、適当ではないと考えますので、ここでは理事長として基本的なことのみに申し上げたいと存じます。

まず、大学および大学院について申し上げます。大学学部第I部は本学園の中心であります。第I部が高い評価を得なければ本学園全体の評価も上がりません。その学部第I部の入学定員は920名であり、平成3年(1991年)から平成12年(2000年)まで、臨時定員増が許可され、その期間中は入学定員1,160名であります。平成12年以前に臨時定員増分240名の少なくとも半分120名程度の入学定員をもつ新学科を設立できればよいと考えています。それが可能になったとしますと、入学定員1,040名となり、文部省は2000年以降の定員超過率を1.1倍に抑えたいといっていますから、入学実員は1,144名となり、4年間で在学総数は4,576名となります。大学学部第I部の量的規模はこの程度に抑えて、もっぱら教育内容の質的向上に専念すべきであると考えます。何故なら、18才人口が減少しますので、あまり大きい入学定員を満足させようとすると質の低下を招かざるをえなくなります。この質の低下こそ、最もさけるべきことでもあります。

大学第II部は、社会人教育を目標として発展させるべきであります。現在のようにまだ18才人口が多い時期では、いわゆる「I部予備軍」の諸君の入学率がかなり大きいのですが、18才人口が減少した時期には社会人の占める割合が大きくなり、「I部予備軍」の諸君の数は減

少するはずで、そのときになお、現在の入学定員430名を上廻る応募者を集めうるかどうか最大の問題となります。新宿校地の交通の便利さと新校舎の快適な環境に加えて、教育内容の質の良さをもってすれば、日本最高の「工学系夜間教育」の場とすることができます。

第II部の入学実員は入学定員と同じとし、4年間の在学総数は1,720名となります。

大学学部は第I、II部合わせて在籍者6296名となり、十分に経営が維持できる学生数であります。

大学院は現在、工学研究科4専攻で入学定員は修士課程で80名ですが、入学実員は130名程度です。既存専攻の入学定員増のほか、新専攻科の増設さらに進んで新研究科の増設に向けて進行中です。大学院については、教育・研究内容の充実のほか、在学生の実員の増大も目指すべきであり、あと5年以内に大学院修士課程在籍者500名の規模にしたいと考えています。

専門学校は昨年(1992年)秋より、新宿校舎に全学科が集結できました。専門学校は18才人口減少の影響を受けると予想されますが、本学の専門学校としての特色を十分に発揮して、学生の数ではなく、教育の質をもって評価を高めるべきであると考えます。

高等学校は大学の附属高校となりました。今後は大学との関係をさらに深くして、附属高校から本学大学への進学はもちろん、他大学へも多数進学するような高校にするべきであると考えます。

校友諸氏の全学園に対するご支援を期待いたします。

# 新校舎に移転して 専門学校の実況と課題

工学院大学専門学校校長 草野 邁

陽春の候となりました。工学院大学校友会会員の皆様にはご健勝にて各方面で御活躍のこととお喜び申し上げます。

学園百余年の歴史の中で、恐らく最大の事業となった新宿校地再開発の第Ⅱ期工事は平成4年9月末日に竣工し、第Ⅲ期工事（街区公開空地と地下店舗と駐車場）が進行中ですが、事実上学園の施設は完成を見るに至りました。第Ⅱ期工事期間中の3年間、専門学校は新宿高層棟の一部に昼間部の土木、建築、電子情報の3科と夜間部全科が、昼間部機械、電気技術、応用化学の3科が岡国貸ビルの仮校舎で、別れて授業を行い生徒諸君と教職員の皆さんには多大の不便に堪えて頂きました。

しかし同年10月4日ようやく両仮校舎から新宿校地中層棟の立派な新校舎に移転集結いたしました。10月10日に多数の御来賓を迎えて高層棟0312大教室で新校舎開校式を、引き続き新校舎の披露の後、高層棟と中層棟を結ぶ1階の新装アトリウムにおいて新校舎竣工祝賀会を盛大に挙行することが出来ました。これはひとえに皆様方の御支援、御尽力のお蔭と存じ、深謝申し上げます。

専門学校専用スペースは6Fの4教室、2実験室、コンピュータ室、就職指導室、5Fの6教室、CAD室、図書室、4Fの3教室、製図室、事務室、教員室、講師室、校長室、地下2Fの3実験室、演習室であり、他に共用のB1の学生ホール、生協売店、スナックコーナー、7Fには約300名収容のカフェテリア方式のグレードの高い食堂があります。

10月12日から新校舎で授業が行われておりますが、新校舎の完成は校舎が新しくなっただけの事ではなく、大きな意義をもつものであります。学園は昭和61年に策定した「学園将来計画要綱」に従い、発展の一大転機を画する事を標榜して、平成3年度から全校を挙げて努力を集中すべき「都心型学園創造のための教学8施策」を推進中であり、その一つが専門学校の充実であり、そのための提案「教育方法の刷新を考慮した教育用機器備品の一新」は今回ほぼ達成できたのであります。この際

“勿体ない”の言葉は棚上げして機器・仕器の更新充実を図り、各科実験設備、コンピュータ室、CAD室等と較べても遜色のない充実を見ることができました。また小さいながらも機能的付帯設備を備えた図書室を新設いたしました。

時あたかも国内外の情勢は大変動の渦中にあり、わが国の政治・経済・教育の各界とも大転換を迫られております。いわゆるバブル経済の崩壊による不況で就職戦線の超売手市場という言葉は過去のものとなり、厳選採用時代に入ったと言われる。また18才人口は平成5年度から急減期にさしかかり、大学が新増設、臨時定員増で広き門になりつつあります。その結果受験生が学校を選別する時代が到来するわけで、高等教育機関は生き残りを賭けて厳しい競争にさらされるようになると言われる。このような苦難にさしかかる時に校舎、施設、設備を更新充実出来たことは誠に幸いな事であり、

この3月27日にアトリウムにおいて昼間部第13回、夜間部第193回卒業式をとり行い、それぞれ428名、270名の新校舎になって初めての卒業生を送り出しました。久々に他所を借りずに卒業式が出来ました。

卒業生の就職状況は不況にも拘わらず登録者全員が就職し、今年話題となった内定取消しは幸い1件もありませんでした。年々増加していた求人数は平成4年度は3年度の76.2%となり、はじめて減少しましたが、それでも求人倍率は約29倍でした。ちなみに工学院大学第2部に16名が推薦入学を認められました。

平成5年度の新2年生は昼間部は定員360に対し428名、夜間部は321名（定員320）であります。平成5年度の入学手続き者は昼間部415名で前年度より17.5%減、夜間部は306名で10%減、残念な事に僅かに定員を割りました。コンピュータ業界の著しい不況を反映して電子情報部の落ち込みが際立ちました。建築料は盛況で志願者が昼間部3.8倍、夜間は書類選考で予定締切日前に募集打ちり



専門学校CAD室（5F）

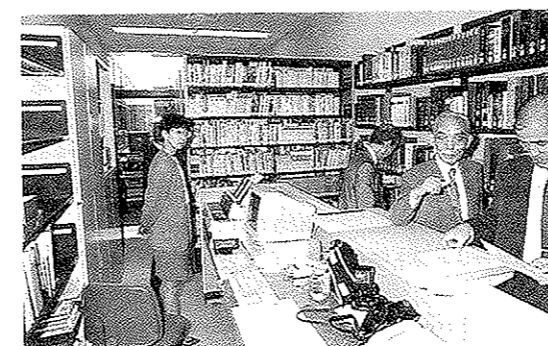
となっております。

専門学校をめぐる明るい状況もできつつあります。文部省の平成4年度学校基本調査によれば1992年度における高卒新卒者の進学先は大学が19.2%、短大13.2%であるのに対し専門学校は15.7%で短大を引き離し大学に迫る勢いであります。1992年7月の文部省生涯学習審議会答申「今後の動向に対応した生涯学習の振興方策について」では「専門的技術教育や職業教育の分野で専門学校の機能を積極的に活用することが望ましい」と指摘し社会人を対象としたリカレント教育の学習機会場の場として専門学校を位置づけています。また平成3年の大学設置基準の改正で専門学校の学習成果を大学の単位として認める道が開かれ、平成5年度から専門学校設置者が税制上の特典がある特定公益増進法人の指定を受けられることになりました。これらは専門学校を大学・短大とともに高等教育機関として認知したものであります。

専修学校制度発足以来17年、平成4年度の専門学校は1275校、在籍69万人（短大52万人）とこれまで順調に伸びたと云えますが、平成4年11月全国専門学校協会が設立され（加盟604校）専門学校は互に競争と協調の関係を保持し乍ら試練の時代へ向かっています。恐らくこれからの1年間に大きな変化が見られることと思われ。

以上の状況にかんがみて、社会のニーズに対応し新都心の校地と新校舎にふさわしい教育内容を創り出して行くため、教職員一同力を合せて努力する所存であります。学科構成（カリキュラム）の見直し、長期休暇を利用した社会人向けのいわゆる附帯教育事業の展開等が当面の検討課題として急がれます。（CADインストラクター認定試験講習会などは設備を活用する手近かな試みであります。）

新校舎落成に当って校友会から多額の御祝金を戴きましたが、それで4F製図室、3教室及び5F1教室にそ



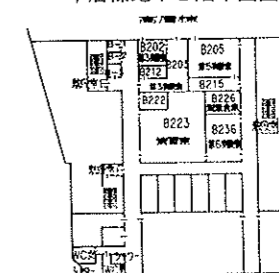
専門学校図書室（5F）

れぞれビデオ装置を設置いたしました。

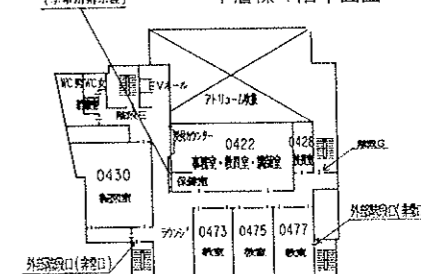
深く感謝の意を表します。

今後とも御助言、御支援をたまわりますようお願い申し上げます。以上

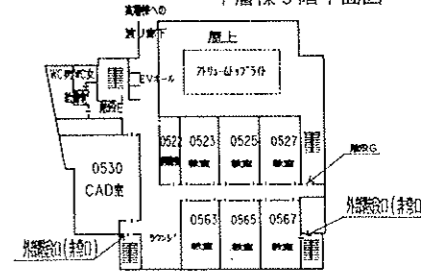
中層棟地下2階平面図



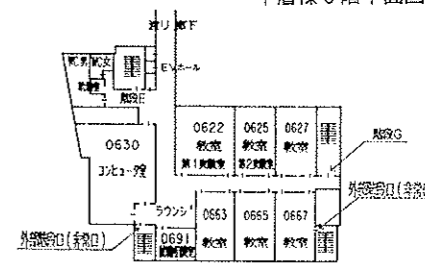
中層棟4階平面図



中層棟5階平面図



中層棟6階平面図



## 第10回校友会全国大会を終えて

広島県支部 副支部長 上船 幸喜

好天に恵まれた平成4年11月14日安芸の宮島に、広島県支部は元より北は北海道から南は台湾まで全国各地から総勢160名の校友が参集し、理事長はじめ学園関係者、校友会本部、更には本大会に賛同下さいました企業、団体あるいは個人の方々のご協力を得て、第10回工学院大学校友会全国大会広島大会を、盛会裡に滞りなく終えることができました。

ここに、広島県支部として心から感謝申し上げます。本場に有り難うございました。

さて、第10回全国大会広島大会をお引き受けしましたのは、前回の静岡県大会に於いて指名されたことおよび平成3年度支部総会で承認された経緯によるものですが、簡単に本広島大会の準備計画と基本方針を記しておきます。

### ●準備計画

#### 1) 最初からの準備計画の立案

(10年前の第4回広島大会の経験を考慮しない)

#### 2) 有機的な準備委員会の組織編成

(広島県支部校友350名の豊富な人材を活用する)

#### 3) 担当部署による大会の細部立案

(人材を各部署へ適材適所に配属する)

### ●基本方針

#### 1) 広島県支部の特色を出すこと

#### 2) 大会実行予算を大きくしないこと

#### 3) 参加者全員が一同に集合できる企画にすること

以上の計画・方針の素案を具体的に実行できるようにするために全国大会準備委員会を結成し、10数回に渡る委員会により議論検討がなされた。

検討結果として、まず開催場所は広島を代表する宮島とし、宮島なら開催月日は秋を最も鑑賞できる紅葉の時期の平成4年11月14日(土)となり、会場は我々の先輩である故武内巖さんのご子息が経営されている錦水館に



決定された。

又、全国大会の内容は3部構成にしました。その内容については、後述しますので割愛させていただきます。

翌日の観光は、厳島神社を参拝して舞楽を鑑賞した後には本会を解散し、自由観光をして頂くことにしました。

以上の企画を実行するための予算を調達しなければなりません。幸い工学院大学学園の卒業生には、自営の方が多く賛助広告の大半をお願いしました。又、当支部校友個人にも寄付をお願いしました。

なお、校友会本部と山口県支部には、多大なご協力を得て、多くの賛助広告を取って戴きました。

更には、学園、来賓の方々、静岡県支部、校友会本部および校友より多額のご寄付を戴いて何とか全国大会を実行することができましたことをこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

以下に本全国大会の様子を要約して述べますが、実は全国大会の前日に「第10回工学院大学校友会全国大会記念ゴルフ」を当支部の井井支部長のお骨折りで名門「広島カンツリークラブ八本松コース」で有志が集い行われましたが、その際に当支部の藤堂さんが、OUT No. 5 175Yのショートコースで4Wを使ってホールインワン



の快挙を成し遂げると言う全国大会に向けての幸先のよいスタートになりました。

さて、天気に恵まれた全国大会の当日は、11時から宮島伝統産業会館に於いて支部長会が行われ、各支部の活動状況が報告されましたが、支部活動の活性化については何れもご苦労が多い様でありました。

3時からは宮島観光会館に於いて第10回全国大会を開始し、第一部として、理事長はじめ各関係者に挨拶をして頂き、又全支部長を代表して、ハナ肇東京支部長にも短い時間ではありましたが、校友会の活性化に関する話を笑いを交えながらして戴きました。その後、参加者全員で記念撮影を行った。

引き続き、第二部の記念講演として、宮島大本山大聖院吉田裕信先生の「今、この時代の時代」と題した有意義な心温まる講話を拝聴させて頂きました。

第三部の懇親会は錦水館で5時半から会場静寂のうちに、戸田副支部長の先生である加藤春美玄武師の初太刀に始まり試し斬りに終わる事前の演舞を鑑賞しました。

次いで、開会の挨拶、来賓の祝辞があり宴会に移ったところで、広島支部花田副支部長が所属する安来節保存会宮島支部の皆さんによる唄、踊り、銭太鼓等賑やかに

宴を盛り上げて戴きました。特に、どじょう掬いを踊られた花田さんにはやんやの拍手が浴びせられました。

又、欲談の合間には、村上明さんによるアコーディオン演奏で宴の座を楽しくして戴きました。

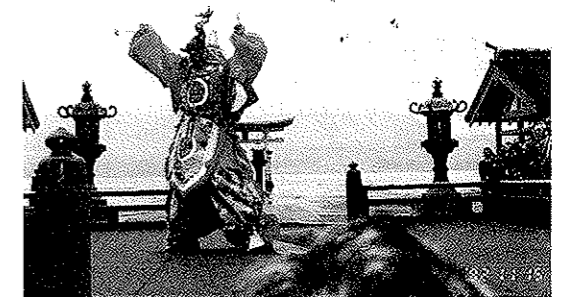
宴の最後に次期開催地兵庫県支部の岡本支部長、奥濱副支部長に挨拶をして戴き、次期兵庫県大会の成功を誓って万歳三唱を学園側、校友会側両方より行いエールの交換としました。

最後に大会実行委員を紹介し、その労をねぎらって閉会としました。閉会后も各部屋等で長い間歓談が続いていたようです。

翌日は9時から厳島神社を団体で参拝し、普段は見られない舞楽を工学院大学校友会のために舞ってもらい、これを鑑賞して無事自由解散となりました。

大会中は事故もなく無事終了することが出来ましたことを大会実行委員の一人として、参加下さった校友の皆さんにお礼申し上げます。

以上、広島大会の経過を簡単に述べさせて頂きましたが、到らない所或いは詳しく申し述べるべきところを紙面の関係で割愛しました点はお許し下さい。



## ●学園だより

### 学園本部

平成4年度の学園関係者の叙勲叙位の方々は次のとおりです。

勲一等瑞宝章

今井 功 本学園顧問

勲三等瑞宝章

村上徹朗 名誉教授

従四位

故藤原英一 名誉教授

正五位

故松浦隼雄 常務理事

藍綬褒章

大橋秀雄 大学機械工学科教授

### 大学

入学試験結果について

1993年度大学入試は、第1部前期試験〔2月6日～2

月9日〕、第1部後期試験〔3月6日〕、第2部試験〔3月5日〕の6日間にわたって行われました。今年度は18才人口減、経済不況の影響をまともに受けて、志願者数を昨年度と比較すると第1部前期、後期および第2部を合わせて3,571名(21%)の減少となりました。

### 1993年度 入学試験結果

部	学科・コース	入学定員	志願者数		合格者数		志願者の前年比増減	
			前期試験	後期試験	前期試験	後期試験	前期試験	後期試験
第1部	機械系学科	300	2,869	272	679	52	-392	-104
	応用化学科	150	1,030	118	378	20	-256	+7
	化学工学科	100	771	29	217	19	+126	-45
	電気工学科	150	1,348	130	392	19	-489	-13
	電子工学コース	200	1,152	83	308	13	-502	-34
	情報工学コース		1,759	134	246	36	-342	-114
	建築学コース	260	2,037	339	403	17	-684	-64
	都市建築デザインコース		1,371	209	194	25	-77	-123
合計	1,160	12,337	1,314	2,817	201	-2,616	-490	
第2部	機械工学科	120		324		124		-152
	工業化学科	90		244		100		-86
	電気工学コース	110		122		53		-39
	電子工学コース			94		45		-69
	情報工学コース			175		72		-86
	建築学科	110		427		112		-33
合計	430		1,386		506		-465	

### 高等学校

●クラブ活動

平成4年度は、野球部の活躍に胸を踊らせた。体

育館が完成しましたので、体育系クラブのこれからの活躍に期待して下さい。

現在、体育系14クラブ、文科系の10クラブの24クラブが活動しており、体育系の14クラブはすべて部室を持っております。

野球部(部長 宮澤義勝・監督 高橋憲治)

3年度西東京大会ベスト4、秋季都大会ベスト8、4年度西東京大会ベスト4の活躍は、甲子園への道が近い将来には実現するのではと、大いに期待されます。

柔道部(部長 伊藤康之・監督 大庭一平)

元年度、2年度、3年度と3年連続で関東大会へ出場。4年後は残念ながら出場できませんでしたが、支部大会・都大会では優秀な成績を上げております。

自動車部(顧問 島田浩行)

3年後ホンダエコノパワーレース85台中41位。

4年度106台中41位、220km/1と記録を伸ばしております。

自然科学部(顧問 川添英二)

平成4年度第36回日本学生科学賞において、個人研究の部で3年生の真島 満君が「TBG放射線の測定の研究」で、科学技術長官賞を受賞。

放送部(顧問 渡部知弥)

平成4年度NHK杯全国高校放送コンテストテレビ番組自由部門「高尾山の自然、今……。」で全国2位(NHK会長賞)受賞。

演劇部(顧問 斎藤卓巳)

平成4年度34回東京私立中高演劇発表会に参加し「讃歌」で優秀賞受賞。

●高等学校八王子移転25周年記念祝賀会挙

昭和42年4月八王子校地へ移転して以来、平成4年を

もって25周年を迎えました。

これを記念して、平成4年9月12日に高等学校体育館において、八王子移転25周年記念祝賀会が多数のご来賓をお迎えし挙行されました。

●文化セミナー

平成4年9月16日八王子市民会館において、「第2回文化セミナー特別講演会」が開催されました。冒険家小嶋一男氏を講演者としてお招きし、「犬橋レースにかけた人生」の演題で講演をしていただきました。

先生の実体験からのお話しは、生徒に深い感動を与えた、素晴らしい講演でした。

今年で2回目ですが、ご父母の参加も昨年より増え、文化セミナーの成果も予想以上に上がっているものと確信しております。

●進路状況

3月1日現在の進学者は、工学院大学I部170名、II部64名、武蔵工大、明星大、東京理大、山梨学院大、上武大、関東学院大、高千穂商大、産能大、城西大、中央大、日本ルーテル神大、帝京大、芝浦工大に各1名、東京国際大に2名短期大学に1名、工学院大学専門学校に13名、他専門学校に30名、就職者は11名、未定は71名であった。

●入学応募状況

平成5年度の入学応募状況は定員男子400名に対して、850名の応募があった。

### 専門学校

平成4年10月新校舎へ移転しました。

平成4年度の例年の学校行事は滞りなく終了しました。主な行事は、入学式、健康診断、電卓検定試験、後援会総会、昼間部体育合宿授業、製図作品展、入学志願者募集、卒業式等でした。この例年の行事を行いながら、新校舎への引っ越しもしました。新宿再開発事業が始まってから何回引っ越しをしたでしょう。実験室にするからと、教員室が1階から2階へ移動したのが最初で、両国への仮引っ越しを入れて4回の移転をしました。

新宿校舎とりこわしのため、両国国際ビルを借りて機械科、電気技術科、応用化学科の昼間部三科が仮移転を

しました。平成元年9月14日両国校舎として開校式を挙行し、平成4年9月26日のさよなら会までの丸3年間を両国で過ごしました。

平成4年10月4日(日曜日)両国校舎と新宿高層棟から新校舎中層棟へ移動し、10月10日に竣工開校式を挙行、平成4年度後期授業から新しい教室での勉強が始まりました。

入居してから半年が経過し、まだ整理されていない所もあり、教室数も不足していますが、なんとなく納まって来ています。これからは移転することは無いと思いますので、工夫して使いよく利用して行くことが必要です。カリキュラムも時代のニーズに合うように、又、生徒の気質に合うように変更し、よい卒業生を送り出すよう努力して行きたいと思います。

## ●支部だより

### 平成4年度支部総会開催報告

平成4年度は首都圏支部の統合により従来の80支部から58支部となり、その内支部総会を開催した支部は、平成3年度より2支部増え、多くの校友が参加され親睦を深められました。

開催支部は下記の通りです。

- 4月3日(金) 清水建設支部
  - 4月17日(金) 富山県支部
  - 4月25日(土) 広島県支部
  - 5月17日(日) 長崎県支部
  - 5月31日(日) 宮城県支部
  - 6月12日(金) 新宿支部
  - 6月13日(土) 長野県支部
  - 6月14日(日) 埼玉西支部
  - 6月19日(金) 山梨県支部
  - 6月21日(日) 栃木県支部 群馬県支部
  - 6月27日(土) 大阪支部 高知県支部
  - 7月1日(水) 東芝支部
  - 7月5日(日) 千葉県支部
  - 7月18日(土) 山形県支部
  - 7月22日(水) 日本電気支部
  - 8月8日(土) 北海道支部
  - 9月6日(日) 愛知県支部
  - 9月26日(土) 東京支部 兵庫県支部 台湾支部
  - 10月24日(土) 青森県支部
  - 11月1日(日) 新潟県支部
  - 11月7日(土) 横浜支部 川崎支部 湘南支部  
相模支部 西湘支部
  - 11月20日(金) 沖縄県支部
  - 5年3月7日(日) 秋田県支部
  - 3月28日(日) 愛知県支部
- (平成5年度として開催)

### 平成5年度全国支部長会のお知らせ

日時 平成5年9月25日(土) 午前11時30分～午後3

時まで  
会場 母校 新宿校舎28階 会議室  
話題 平成4年度支部長会に於てご提案頂いた話題から  
会の終了後懇談会を予定しております。時間の許す限りご参加頂きますよう御待ちしております。

### 首都圏支部統合 についての報告

平成2年度発行の校友会第111号から平成4年度の第113号までの会報にご案内してまいりました、首都圏支部統合につきまして、仮称東京支部設立準備委員会を設立し準備委員会の皆さんのお力添えにより、首都圏26支部中数支部を残し、平成4年9月26日(土)午後1時より、母校新宿校舎3階大講義室に於て、東京支部設立総会を開催致しました。

初代支部長にはご参加頂いた校友の皆さんのご推挙により、ハナ肇さんをお願い致しました。

ハナ肇部長さんの抱負として“若い卒業生に参加してもらえ、楽しい、ゆかいな会にして行きたい”と言うことでした。

平成5年度総会には一人でも多くの皆さんに参加して喜んで頂ける会にしたいとのことです。この東京支部が発展するか否かは首都圏の校友の皆さんのお力添えによるものと思っております。皆さんの力強いご支援をお願い致します。

### 東京支部設立と今後について

東京支部支部長代行 坂田 佳昭

校友会報113号で東京地区支部統合の為の設立準備委員会が開催された旨、報告がありましたが、その後何度か委員会を開き、ようやく平成4年9月26日(土)新宿校舎に於いて東京支部設立総会が工学院大学学長・北郷薫氏、専門学校校長・草野逸氏、高等学校校長・黒谷義雄氏、校友会会長・南雲芳夫氏等の多数の来賓の方々の御臨席を頂き開催されました。開会挨拶、そして組織部



長の恒松さんより経過報告及び設立趣意報告があった後、1号議案規約について、2号議案支部役員選出について等議事が進められ、会員の皆様方の温かいご協力と力強いご尽力を頂き、ハナ肇支部長を始め他の役員、全員が大きな拍手の中選出されここに東京26支部の内、23支部が統合され新しい東京支部が誕生したわけでありませう。記念写真撮影後、28階に場所を移し、ハナ肇支部長を中心に立食パーティが賑やかに開催されました。

会場入口では、ハナ肇さん自筆サイン入りの書「あつと驚くりーダー論」が参加者全員に配られ、会場内では久しぶりに会う友、先生方と旧交を温め、昔話に話を咲かせ、又、ハナ肇さんとの記念撮影等、時間のたつのも忘れる程でした。

現在、ハナ肇支部長を中心に東京支部を楽しく明かるい会にしようとする事業を計画しております。そしてその中で会員同志の交流を深め、ふれあいを少しでも多くしたいと願っております。事業内容については近い内にお知らせする予定ですがその際には、ぜひ大勢の会員の皆様方の積極的な参加をお願い申し上げます。又、これらの事業活動の源となるのが年会費¥3,000でございますがこれも上記のお知らせと共に振込用紙を同封させていただきますので、ぜひお忘れのない様よろしくお願い申し上げます。

### 支部事業女川原子力発電所 見学について

宮城県支部

平成4年の支部総会が5月31日仙台市の東北電気会館で開催した。はや1年になろうとするが、その時事業の一つである講演会を工学院大学建築学科の谷口宗彦助教授を招き「都市型住宅について」のご講演を頂いた。先生は都市景観に興味を示され、前日から来られ案内なしで独りで市内を歩かれたとのことであった。講演の内容はスライドを使って都市に住むことを前提に狭い敷地に立体的に工夫して都市生活にマッチした家づくり、また身体障害者等つまり人間の要望に合った設計に心掛けておられたようにお見受けした。

当支部にも建設業を営む会員も多く、多数出席し盛況の内に閉会した。

話が前後するが総会の席上事務局から本年の事業として地元にある東北電力の女川原子力発電所を見学したらとの提案に満場一致で承認し10月に実施の予定を決めた。実施に当って会員個人の趣味など取り入れ金華山参拝と海釣を計画、バスのツアーを想定し参加者を募ったが10人の参加に留まって結局見学会だけとなった。

当日は曇のち小雨で仙台から各自マイカーで行くことになった。仙台から東北に100km近く、太平洋に面した牡鹿半島に女川原子力発電所がある。この辺は南三陸国





定公園の南端にあり太平洋上に浮かぶ周辺約26kmの霊島金華山があり開運の神として信仰されている黄金神社がある。またこの辺は漁場のメッカであり、土日曜日、祭日は釣り公望の溜り場でもある。

原子力発電所に入る前に予備知識としてPRセンターを見学し可愛いバル嬢（PR Ladyの略称）からセンター内を案内してもらった。この地も風光明媚で発電所の全景が前面にあり、周囲の景観に合せ発電所建屋の色（クリーム色と茶色）が松の緑と海のブルーがよく調和していた。

発電所の概要は出力52.4万kw、原子炉型式はBWR、運転開始は昭和59年6月1日である。現在海側に第2号機出力82.4万kw、型式同じで運転開始平成7年7月を目指し工事が進められている。

発電所に入って先ず中央制御室に入り直員の説明を聴き、更衣室で薄いガウンを羽織り（放射性物質が付いても所内で洗濯できるもの）、タービン建屋と原子炉建屋内を見学し一時間位で原子力技術の一端を見て終了した。会員にはいろいろの立場の方異業種の方が参加していて、それぞれの立場で感想をもたれたことだろうと思う。発電所のゲストルームで小休止している間に夕方となり発電所近くの民宿に宿をとり、見学会の感想、学生時代の思い出、来年の事業・ゴルフのコンペなど懇談しながら酒を酌交し夜遅くまで各人思い思いに語り、来年の総会と支部事業での再会を約し、盛況の内に終了した。

1993. 2. 25 鈴木記

## 校友会支部の活性化とは

青森県支部長 外川 譲二

昭和62年から今日まで6年間、青森県支部会のまとめ役を勤めておりますが、毎年行う支部会連絡用ハガキの回収率は、50%にも満たないし、その内、出席者は10%程度であるので、何とか活性化を図りたいと話してきましたが、最近はこの言葉の意味に疑問を感じるようになりました。

支部総会の活性化とは、会員が多く集まり、校友会本

部への寄付が多く、さらに支部長が毎年行われる支部長会議に出席して、校友会の現状を詳細に会員に報告すること等々考えられますが、私にはいずれもYesともNoとも受け取れるのです。

当初、支部長を引き受けるに当たって、まず考えたことは、支部会を継続することでした。自分の足かせになることは承知しているが、次の世代まで引き継ぐためにも、規約を設けて毎年開催することにしたのです。実際、私には負担になっているので、2年毎の改選時期には、辞退したい旨の願いをさせていただきましたが、これまで自薦、他薦を問わず後継者が決まらずに今日に至っております。

しかし、ともすれば惰性に流れがちな支部会にあって、私には思いがけない幸運が巡ってきました。平成3年10月の支部総会で、校友会本部の恒松部長の何気ない（ご本人の言）アドバイスが契機になって、多くの会員の協力もあり、北郷学長をお招きする機会がもてたことです。このとき私の脳裏をよぎったのは高校時代に、ある高名な大学教授の講演を聞いて、内容は忘れてしまったが、高校生とはこのような学術講演も聴講できるのだという感動であった。

学長職に就かれている先生には、甚だ薄謝で申し訳ないことであったが、学長に率直に高校側の条件で講演もお願いしたところ、ご快諾して頂いたので、当地の工業高校で学長の講演も実現できました。

学長のお話は、21世紀にエンジニアとして活躍するであろう多くの若人に、夢と希望を与えてくれたと信じているし、工学院大学のイメージを彼らに印象づけた事も確かであります。

その折りに「学長を囲む会」という名称で支部総会を開催したが、会員の集まりは20%そこそこでした。それでも学長の出席は、本県の支部会の存在に、多くの会員の目を向けさせたことは否定できないように思っております。

その翌年の平成4年の総会は、やはり10%位の会員しか集まらなかったが、会員同志は互いに睦みあい、裸の付き合いができるようになりました。

以上申し述べたように、短期間での経験を基に、結論

を下すのは早計との批判もあるでしょうが、あえて支部活性化にたいする私見を申し上げますと、会員同志の親睦の度合いが、密になることとイコールに思えてきたのです。

支部総会に出席して楽しかった。人と人とのカイゴウ（邂逅）というか出会いの素晴らしさ、来年は誰とどういいう語らいをし、またどんなお話が開けるだろうかとの期待感を抱かせたら、それは成功といって過言ではなさそうである。

したがって活性化の条件は、定量的な人数や、具体的な寄付の多寡よりは、むしろ唯心的な人間の心に内在する睦み合う気持ちの高まりに依存するように思えてきたのです。

その意味でも継続することは、重要なことであり活性化の力になり得ると考えるようになりました。

これからは、集まる会員数にこだわらずに、集まった者同志で大いに飲みかつ語らい、また歌ったり踊ったりして、和気あいあい楽しんで明日への活力と鋭気を養って、さらなる支部発展へと結びつけていきたいものと願っております。

つたない文章で赤面の至りですが、あえて会員諸兄に配布してご意見をお聞かせ頂ければ幸いと思っております。

弘前大学教授（機械工学科六回卒）

富山県支部OBの活躍について'92年6月1日付北日本新聞紙上、下記の記事が掲載された。

個人戦優勝者丸山哲夫氏（富山県支部書記・建41卒）の報ずるところにより、ご紹介します。（編集部）

東京理工6大学OBゴルフ

## 工学院大が初優勝

個人は丸山さん（工学院大）に栄冠

東京理工6大学OBゴルフ大会（北日本新聞社共催）が31日、富山市の呉羽カントリークラブで行われ、団体戦で工学院大がネットトータルで434で初優勝、OB会長杯を獲得した。

団体戦は各チームの上位6人のネット合計で順位を決

めた。2位は武蔵工業大、3位は東京電機大だった。

個人戦でも、工学院大の丸山哲夫さん（49）＝小杉町南太閤山＝が94（ハンディ24.8）で初優勝した。ベストクロス賞は、東京工業大の高島勉さん（52）＝朝日町荒川＝が84で手にした。

65人が参加し、立山コースを使って新ベリア方式の18ホールストロークプレーで競った。

▶団体戦①工学院大434②武蔵工大439.4③東京電機大443④芝浦工大446⑤東京理科大447⑥東京工大447.6



## 平成5年度支部総会開催予定

平成4年度に支部総会をする支部を第113号の会報に30支部をご案内致しましたところ25支部が実施いたしました。又ご案内以外の6支部が総会を開催し合計31支部となりました。ご参加頂きました皆さんにお礼申し上げます。平成5年度支部総会開催予定をご案内致します。会報発行時に総会が終了している支部もごさいますが、何分先のことですのでお住まいの各支部にご連絡して、日時、場所をご確認の上、ご参加頂きますようお願い致します。

平成5年

山口県支部（連絡先 在間副支部長 0836-33-5161）

4月11日（日）PM3:00～6:00 山口グランドホテルに於いて

富山県支部（連絡先 山本支部長 0764-41-2255）

## ●部会報告

### 総務部

総務部は常任理事会、理事会等の会議を主宰すると共に、各部を側面から支援し、校友会会員相互の親睦と、本学園の発展を祈念しつつ、事務局の皆さんと共に会務の円滑な運営を図る事を目的に活動してまいりました。

尚、今年度は学園の改選期となり、次の皆さんが理事監事、評議員として活躍して戴く事となりました。

学校法人工学院大学

理事 南雲芳夫 田中博国

監事 只野文哉 足立剛一 北沢興一

評議員会副議長 長嶋秀世

評議員

石成和男 井出英人 内山 太 榎本忠良 清水寛一郎

片岡国幸 酒井史生 佐合道也 高木雅行 高田芳矩

高橋孝治 谷口宗彦 恒松良一 寺島敬二 間宮真佐人

西尾順文 米沢隆男

評議員補欠候補者 山田文昭 笠原又一

平成4年度会議開催状況

理事会(4回)

4/12 平成3年度事業報告 決算報告について

退任理事、支部長 表彰について

9/29 中層棟のお祝い金について

東京支部発足について

全国大会(広島大会)について

12/18 理事の中途交替について

3/25 平成5年度事業計画、予算案について

総会および評議員会

5/24 平成3年度事業報告、決算報告について

平成4年度事業計画、予算案について

定款施行細則改正および会費改定の件

常任理事会(9回) 監査会(1回)

総務部会(8回) 財務部会(5回)

広報部会(2回) 企画部会(2回)

事業部会(5回) 組織部会(5回)

校友会では広島大会の支援の為、本部として、事業部が中心になり、広告を募集したところ多数の皆様からご協力を賜りました。篤く御礼申し上げます。

(総務部長 酒井史生)

### 財務部

校友会会員諸氏におかれまして、ご健勝のこととお喜び申し上げます。校友会維持協力会費のご協力を通し、財務へのご支援に対し厚くお礼申し上げます。本年度財務の大役を仰せつかり、早1年を経過します。懸案事項であった会費改訂が前年度の財務部委員を始め多くの人々のご協力により、平成5年度より実地されることになりました(前回改訂、昭和56年)。

新財務部委員は過去10年の収支の状況の把握と今後10

年の収支の見通しを検討してきました。ごぞんじのように校友会の財源は在学中に納入する会費、基金の利息と会員諸氏の維持協力会費によって賄われています。なんと今後10年間に財産を3、5億円とし、会費+利息+協力会費の3本柱に裏付けされた、アクティブな活動が出来体制の構築を目標としております。

会員諸氏の維持協力会費のいままでに増すご援助をお願い申し上げます。(財務部長 関口 勇)

### 事業部

各支部で御活躍の校友の皆さん、益々御健勝のことと御慶び申し上げます。

1. 第10回全国大会(広島大会)が平成4年11月14、15日安芸の宮島、錦水館に於いて、天候にも恵まれ、高山理事長、坂本宮島町長を迎え、校友150余名の参加の基に盛況のうちに親睦の絆が一層増した有意義な大会が出来ました。

ほんとうに喜ばしい事です。紙面を借りて大会運営に当たられた皆様に厚くお礼申し上げます。

次期第11回全国大会は平成6年兵庫県支部(岡本耕一支部長)に全員の総意で決定しました。改めて、ご案内を致しますがその節は、よろしくご支援の程お願い

い致します。

2. 平成5年1月23日 新年賀詞懇親会を新装成った中層棟7階で、北郷学長始め学内の先生方、校友90余名の出席の基、開催され、新たな気持ちで学園の発展と、校友会の充実を確認する楽しい一刻を過ごしました。

平成6年の新年会を、1月22日(土)新宿校舎で午後2時~4時、計画して居ります。

3. 校友会「カード」発行に対するご案内及びお願い。昨年発行し、約1年に成ろうとしています。機会がある度に、校友の皆様にご協力をお願いして居りますが、なかなか成果が出ません。此の「カード」は一般のクレジットの機能に校友会独自の特典を付加した個

4月23日(金)PM6:00 高会館に於いて

中野支部(連絡先 落合副支部長 3384-1511)

5月14日(金)PM6:00 母校会議室に於いて

大阪支部(連絡先 近藤支部長 06-372-8181)

5月15日(土)PM6:00 東洋ホテルに於いて

熊本県支部(連絡先 吉永支部長 0968-74-2439)

5月16日(日)時間未定 場所 熊本市内のホテルに於いて予定

宮城県支部(連絡先 中村支部長 022-278-5355)

5月28日(金)PM6:00 東北学院同窓会館に於いて

山形県支部(連絡先 渋谷幹事 0236-42-8510)

6月6日(日)時間 未定 場所 検討中(県内)

埼玉西支部(連絡先 谷口支部長 0493-22-1361)

6月13日(日)PM3:00 紫雲閣(東松山市内)に於いて

京滋支部(連絡先 伊藤支部長 0749-24-6500)

6月中旬頃予定 場所 京都市内で検討中

山梨県支部(連絡先 加藤支部長 0552-52-8212)

6月18日(金)PM6:00 紫玉苑に於いて

新宿支部(連絡先 高野支部長 3342-1211内2659)

6月19日(土) 母校新宿校舎にて

高知県支部(連絡先 三輪支部長 0888-60-6067)

6月26日(土)PM6:00 (魚竹本店に於いて)

特に四国の校友のみなさんの参加をお待ちしております。ご連絡下さい。

東芝支部(連絡先 田中支部長 3457-8284)

7月1日(木)PM2:00~4:00 母校28階会議室に於いて

静岡県支部(連絡先 山崎支部長 0542-82-3855)

7月3日(土)PM2:00 静岡市内に於いて検討中

神奈川県5支部合同(横浜、川崎、湘南、相模、西湘、各支部)

(連絡先 太田支部長 044-766-8795)

7月3日(土)PM2:00 母校28階会議室に於いて

日本電気支部

7月16日(金)PM6:30 場所 検討中

千葉県支部(連絡先 佐藤支部長 0474-48-4811)

7月17日(土)PM3:00 千葉京成ホテル(千葉市内)に於いて

栃木県支部(連絡先 阿久津支部長 0286-75-0511)

7月18日(日) 関東チサンホテル(宇都宮駅前)

北海道支部(連絡先 馬淵支部長 011-781-7854)

9月11日(土)PM6:00 札幌市内を中心に検討中

八南支部(連絡先 菊池支部長 0426-24-5062)

9月25日(土)PM5:00 八王子労政会館に於いて

兵庫県支部(連絡先 岡本支部長 076-391-0935)

9月25日(土)PM4:00 姫路市内を中心に検討中

東京支部(連絡先 坂田支部長代行 0423-65-2955)

9月26日(日)PM1:00 母校新宿校舎に於いて

宮崎県支部(連絡先 片岡支部長 0987-23-5300)

9月中予定 場所 宮崎市又は日南市で検討中

青森県支部(連絡先 外川支部長 0172-36-4034)

10月中旬頃予定 場所 上北郡の野辺地か三沢を検討中

新潟県支部(連絡先 谷口支部長 0254-26-0087)

10月31日(日)PM1:00 ニュー安兵衛(新潟駅前)に於いて

沖縄県支部(台湾支部の皆さんが訪問することになっており一緒に総会に参加して合同で開催したいと言う希望です)

(連絡先 松田幹事 098-832-9946)

11月19日(金)PM7:00 パシフィックホテル沖縄にて

長野県支部(連絡先 鳥羽支部長 信州大学内

0268-22-1215)

11月20日(土)PM6:00 みやま荘(松本市)に於いて

長崎県支部(連絡先 江口支部長 0958-79-0395)

11月下旬又は12月初旬頃 忘年会を兼ねて 場所

長崎市内で検討中



値ある「カード」です。「カード」会社との提携手数料の収益が上れば校友会の財源の一部として活用を考えております。

是非「カード」の入会をご検討ください。資料は事務局にあります。お気軽に相談下さい。  
(事業部長 石成和男)

## 企画部

昨年は、財務部との合同部会を開催し、今年の入学生より会費の増収が計られることから校友会の活発な活動を推進する様にとの意見が提出された。それを受けて今年度は、(1)学生会員対象の就職活動支援、(2)卒業生対象の就職先企業懇親会開催、(3)八王子・新宿キャンパス環境整備協力、(4)新宿ファカリティークラブ利用推進、(5)校友寄付金募集規定検討を骨子にその具体化に入る予定です。昨年「工学院大学校友会法人協力会員募集のアン

ケート」はかなり良い結果でしたが、定款に法人会員の項目がなかった事と、低成長下の社会状況から、内容を一部変更し、実施に移りたいと思っています。

企画部としては他の各部との協力を得ながら、都心型校友会へ向けて又、5年後の校友会創立100周年を目標に今年の活動を展開する予定です。会員のご協力をお願い致します。  
(企画部長 小高鎮夫)

## お知らせ

表彰（平成4年度総会に於いて）

(1) 表彰状贈呈

会長 丹羽宏之

(2) 感謝状贈呈

副会長 山崎隆一

常任理事 大柳康雄

理事 小野塚政雄

篠原梅吉

住野和男

永島正義

丸山篤一

北沢興一

溝上俊治

監事 富所良二

支部長 群馬 中島治男

京滋 石川太一

山形 長岡喜美男

(注) 職名は退任時職名である。

## 計報

篠原梅吉 前理事江東区支部長 平成4・6・15逝去

松浦隼雄 学校法人常務理事 平成4・7・30逝去

浅田鎌太郎 相談役 平成5・1・19逝去

### (3) 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学 科 学 年	氏 名
大 学 院	機械工学専攻修士課程2年	三 枝 社
	工業化学専攻修士課程2年	村 田 順
	電気工学専攻修士課程1年	倉 田 智 成
	建築学専攻修士課程2年	三 沢 守
大	第1部 機械工学科2年	黒 田 暁
	第2部 機械工学科2年	青 木 美紀男
	第1部 工学化学科2年	小 宅 隆 博
	第2部 化学工学科2年	
学	第1部 電気工学科4年	稲 垣 順 一
	電子工学科4年	川 合 誠 司
	情報工学コース3年	安 倍 のぞみ
	第1部 建築学科建築学コース2年	大 前 友 亮
第2部 都市建築デザインコース2年	谷 本 晴 彦	
専 門 学 校	昼間部 土木科2年	吉 田 雅 之
	機械科2年	持 田 紀 子
	建築科2年	門 脇 賢 治
	電子情報科2年	
高 等 学 校	夜間部 建築設備科2年	岡 崎 正 博
	電子情報科2年	中 村 壮 一
	普通科3年	水 原 光 裕
	普通科2年	近 江 清 賢
		里 村 英 樹
		山 洋 明
		麻 生 亮
		藤 賢 太郎
		後 藤 信 一

社団法人 工学院大学校友会

## 第48回評議員会 開催お知らせ

会長 南雲 芳夫

日 時 平成5年5月30日(日)13時~15時

場 所 工学院大学新宿校舎高層棟3F

0312教室 大階段教室

議 案 (資料参照)

第1号 平成4年度事業報告並びに収支決算報告書承認の件

第2号 平成4年度財産目録承認の件

◎同上監査報告

第3号 平成5年度事業計画(案)並びに収支

予算(案)承認の件

第4号 役員変更の件

(注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答ください。

(注2) 施行細則第10条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

記念講演 議事に先立ち北郷薫理事長に記念講演をお願いいたします。懇親会 議事終了後開催します。多数ご参加下さい。

## 平成4年度事業報告書

事業に関する定款条文	事 業 内 容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助した。 2. 学園将来計画に協力した。
学校に在籍する学生、生徒の学習活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助。 優秀な学生には各学校毎に表彰した。
会誌および学術図書刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会会報113号を発行した。 2. 会員名簿の刊行を行った。 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会を開催した。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 第10回全国大会(於広島)を開催した。 2. 懇親会等を開催した。 3. 支部の支援、支部組織の活性化を図った。 4. エステック共同利用事業を推進した。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等の援助を行なった。

## 平成4年度収支計算書

平成4年4月1日から平成5年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
(収入の部)				本部会議費	( 927,000)	( 815,541)	( 111,459)
基本財産運用収入	1,100,000	1,036,180	63,820	役員交通費	( 800,000)	( 899,270)	(△) 99,270
基本財産利息収入	( 1,100,000)	( 1,036,180)	( 63,820)	旅費・交通費	( 200,000)	( 130,988)	( 69,012)
会費収入	30,958,500	30,958,500	0	通信費	( 5,285,000)	( 5,325,212)	(△) 40,212
会費収入機械工学同窓会	( 3,537,000)	( 3,537,000)	( 0)	振替手数料	( 100,000)	( 92,158)	( 7,842)
会費収入応化会同窓会	( 2,776,000)	( 2,776,000)	( 0)	事務用品費	( 700,000)	( 615,275)	( 84,725)
会費収入電気同窓会	( 4,638,000)	( 4,638,000)	( 0)	消耗備品費	( 100,000)	( 51,002)	( 48,998)
会費収入建築学科同窓会	( 4,117,000)	( 4,117,000)	( 0)	印刷製本費	( 1,737,000)	( 2,182,826)	(△) 445,826
会費収入高校同窓会	( 5,050,500)	( 5,050,500)	( 0)	修繕費	( 100,000)	( 0)	( 100,000)
会費収入専門学校同窓会	(10,840,000)	(10,840,000)	( 0)	貸借費	( 570,000)	( 568,628)	( 1,372)
維持協力会費収入	3,500,000	3,508,460	△ 8,460	対外費	( 200,000)	( 151,832)	( 48,168)
維持協力会費収入	( 3,500,000)	( 3,508,460)	(△) 8,460	慶弔費	( 300,000)	( 223,229)	( 76,771)
雑収入	8,100,000	7,980,886	119,114	公租公課	( 130,000)	( 52,600)	( 77,400)
受取利息・配当	( 8,100,000)	( 7,594,201)	( 505,799)	資料作成費	( 500,000)	( 9,600)	( 490,400)
寄付金収入	( 0)	( 20,000)	(△) 20,000	調査費	( 400,000)	( 50,000)	( 350,000)
雑収入	( 0)	( 366,685)	(△) 366,685)	雑費	( 100,000)	( 351,049)	(△) 251,049)
特定預金取崩収入	0	3,360,220	△ 3,360,220	本部会議費S	( 450,000)	( 91,155)	( 358,845)
会館預金取崩収入	( 0)	( 3,000,000)	(△) 3,000,000)	通信費S	( 200,000)	( 3,484)	( 196,516)
退職有価取崩収入	( 0)	( 360,220)	(△) 360,220)	中層棟竣工祝金	0	3,000,000	△ 3,000,000
当期収入合計(A)	43,658,500	46,844,246	△ 3,185,746	人層棟竣工祝金	( 0)	( 3,000,000)	(△) 3,000,000)
前期繰越収支差額	1,500,000	2,895,798	△ 1,395,798	人件費	8,540,000	7,722,793	817,207
収入合計(B)	45,158,500	49,740,044	△ 4,581,544	給与手当	( 7,488,000)	( 6,528,987)	( 959,013)
(支出の部)				福利厚生費	( 552,000)	( 693,806)	(△) 141,806)
事業費	11,054,000	11,373,530	△ 319,530	退職給与引当預金支出	( 500,000)	( 500,000)	( 0)
会報・出版費	( 2,346,000)	( 1,969,360)	( 376,640)	固定資産取得支出	0	548,959	△ 548,959
学生・生徒奨励金	( 700,000)	( 523,540)	( 176,460)	投資有価証券購入支出	( 0)	( 548,959)	(△) 548,959)
支部対策費	( 3,860,000)	( 4,167,251)	(△) 307,251)	特定預金支出	10,800,000	11,577,435	△ 777,435
總會等大会費	( 1,400,000)	( 2,118,902)	(△) 718,902)	会館建設引当預金支出	( 8,000,000)	( 8,777,435)	(△) 777,435)
予備費取崩(大会費)	( 500,000)	( 500,000)	( 0)	減価償却引当預金支出	( 300,000)	( 300,000)	( 0)
広報部費	( 198,000)	( 2,910)	( 195,090)	協力会費引当預金支出	( 2,500,000)	( 2,500,000)	( 0)
組織部費	( 200,000)	( 96,892)	( 103,108)	予備費	965,000		
事業部費	( 350,000)	( 374,135)	(△) 24,135)		△ 500,000		465,000
企画部費	( 200,000)	( 24,240)	( 175,760)	当期支出合計(C)	43,658,000	45,836,566	△ 2,178,566
協力会費割戻金	( 1,300,000)	( 1,596,300)	(△) 296,300)	当期収支差額(A)-(C)	500	1,007,680	△ 1,007,180
運営費	12,799,000	11,613,849	1,185,151	次期繰越収支差額(D)-(C)	1,500,500	3,903,478	△ 2,402,978

(注) △印は予算比超過となる金額である。

## 平成4年度貸借対照表

平成5年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1.流動資産	76,492,645	1.流動負債	72,589,167
2.固定資産		2.固定負債	1,378,183
基本財産	10,000,000	3.正味財産	120,992,522
その他固定資産	108,467,227	(うち基本金)	(10,000,000)
固定資産合計	118,467,227		
合計	194,959,872	合計	194,959,872

## 平成4年度財産目録

平成5年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1.現金・預貯金	75,998,858	1.一般預かり金	101,917
2.有価証券等	493,787	2.在学生会費預り金	72,487,250
固定資産		3.退職給与引当金	1,378,183
1.基本財産引当預金	10,000,000	正味財産	120,992,522
2.什器備品	1,815,374	(うち基本金)	10,000,000
3.電話加入権	102,800		
4.長期預金	183,014,698		
合計	194,959,872	合計	194,959,872

## 平成5年度事業計画

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する。 2. 学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学習活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助。 優秀な学生には各学校毎に表彰する。
会誌および学術図書刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会会報の発行。 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 第11回全国大会(兵庫)の準備活動を支援する。 2. 懇親会等を開催する。 3. 支部の支援、支部組織の活性化を図る。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等の援助を行なう。

## 平成5年度収支予算計画

平成5年4月1日から平成6年3月31日まで

(単位：千円)  
△印は前年度より減を示す

科目	予算額	前年度予算額	増減	科目	予算額	前年度予算額	増減
1 収入の部				通信費	5,280	5,485	△ 205
基本財産収入	450	1,100	△ 650	振替手数料	100	100	
会費収入(6単体)	23,922	30,958	△ 7,036	事務用品費	700	700	
協力会費収入	3,500	3,500		消耗備品費	100	100	
雑収入	6,750	8,100	△ 1,350	印刷製本費	1,840	1,737	103
当期収入合計	34,622	43,658	△ 9,036	修繕費	100	100	
前期繰越収支差額	3,000	1,500	1,500	貸借費	280	570	△ 290
収支合計	37,622	45,158	△ 7,536	対外費	200	200	
2 支出の部				慶弔費	300	300	
●事業費	(11,564)	(10,554)	( 1,010)	公租公課	130	130	
会報・出版費	2,346	2,346		雑費	300	100	200
学生・生徒奨励金	850	700	150	調査費等	0	900	△ 900
支部対策費	4,300	3,860	440	●人件費	( 8,291)	( 8,540)	(△) 249)
總會等大会費	1,700	1,400	300	給与・手当	7,181	7,488	△ 307
広報部費	198	198		退職給与引当預金繰入	500	500	
組織部費	200	200		福利厚生費	610	552	58
事業部費	470	350	120	●積立預金	(2,700)	(10,800)	(△) 8,100)
企画部費	200	200		会館積立預金	0	8,000	△ 8,000
協力会費割戻金	1,300	1,300		協力会費積立預金	2,500	2,500	
●運営費	(11,267)	(12,799)	(△) 1,532)	減価償却引当預金	200	300	△ 100
本部会議費	937	1,377	△ 440	●予備費	( 800)	( 965)	(△) 165)
役員交通費	800	800		当期支出合計	34,622	43,658	△ 9,036
旅費交通費	200	200		当期繰越収支差額	0	0	
				次期繰越収支差額	3,000	1,500	1,500

(平成5年3月25日作成)



上空写真

大学棟・中層棟 1Fアトリウム

